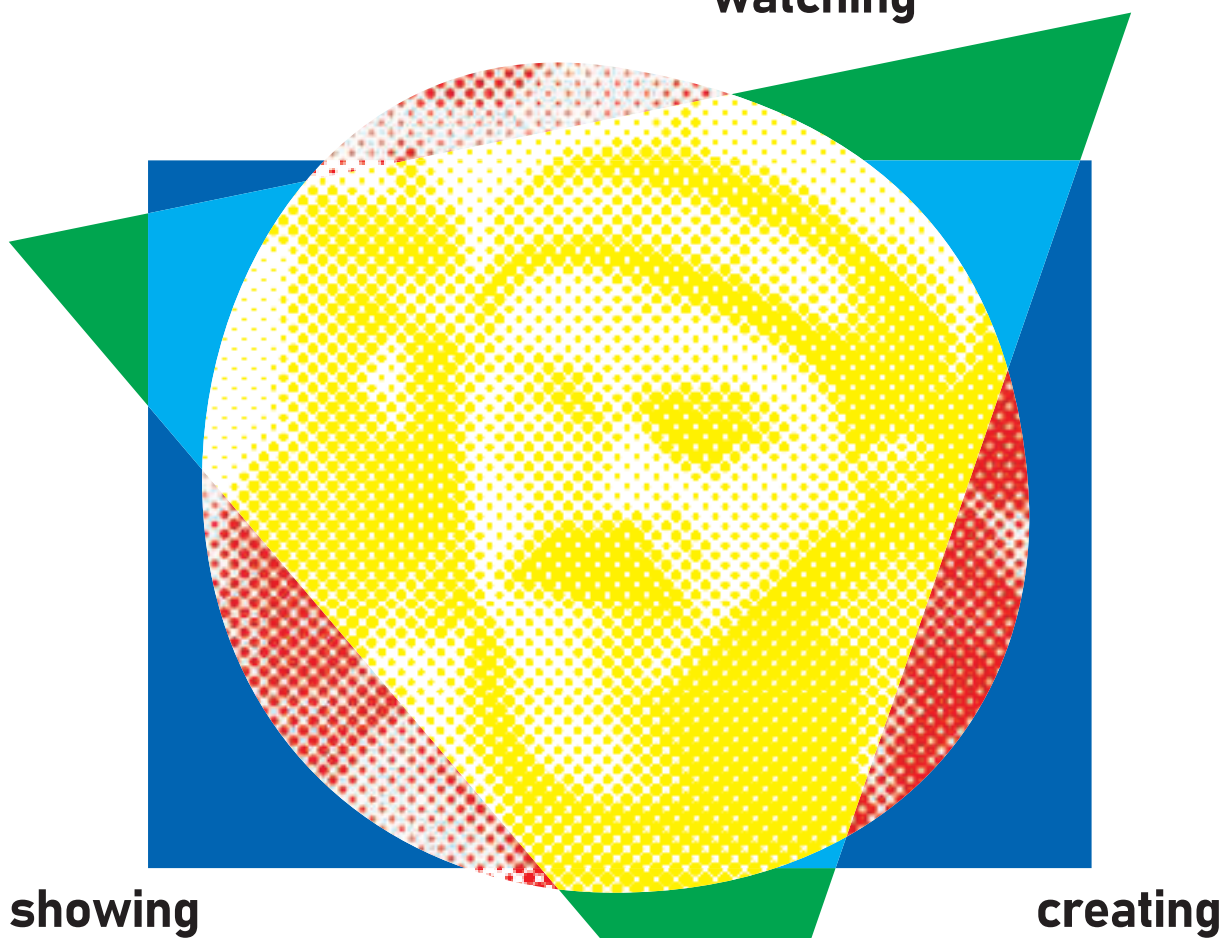


TEKISEN DEMOCRATIC UNIVERSITY 第15回 テーマ「異形」 INTERNATIONAL FILM FESTIVAL

TEKISEN DEMOCRATIC UNIVERSITY 国際映画祭
生きる 15thに 生きたいように

Season2-5

watching



showing

creating

2023.8.24 Thu - 8.27 Sun

会場：東京 DEW 特設シアター

- 中村高寛監督「ヨコハマメリー」
- 土屋トカチ監督「ここから『関西生コン事件』と私たち」
- 雫穿大学作品「様式宣言」ほか
- 特別朗読公演「奥州安達ヶ原挽歌」 出演：大久保美智子

生きたいように生きる。人は苦しむために生まれてきたのではない。粹に当てはまるために生まれたわけでもない。ささやかな人生であったとしても、生きたいように生きられたと感じたい。映画には「生きたいように生きる望みを持たせる」力があると信じます。

私たちが言葉や、絵、文字などだけでは表現しきれない何かを映画は映像のことばで表すことができます。私たちの胸の中に棲んでいるそんな思いを表した動画を国内外から集めた映画を見て欲しい、古今東西の刺激的な動画を見たいし、一緒に見て欲しいのです。この映画祭はそうやって映画を見た人たちがお互いに出会える映画祭です。是非、お出で下さい。

上映作品



ヨコハマメリー

監督：中村高寛 Takayuki Nakamura

■2005年／92分／日本／言語：日本語／字幕なし

■Language：Japanese／Subtitles：-



(C) Mori Hideo

歌舞伎役者のように顔を白く塗り、貴族のようなドレスに身を包んだ老婆が、ひっそりと横浜の街角に立っていた。本名も年齢も明かさず、戦後50年間、娼婦としての生き方を貫いたひとりの女。その気品ある立ち振る舞いは、いつしか横浜の街の風景の一部ともなっていた。“ハマのメリーさん”人々は彼女をそう呼んだ。

本作は、「メリーさん」と彼女が愛し離れなかった「横浜」とは何だったのかを追ったドキュメンタリーである。

特別公演

朗読劇「奥州安達ヶ原挽歌」

民話や能の『黒塚』で語られてきた「鬼婆伝説」を戯曲化。多くの伝説で、鬼婆は旅の僧に正体を知られ、成敗されて終わる。しかし、福島県安達ヶ原の「鬼婆伝説」では、鬼婆が「鬼婆」となった理由が語られている。

のちに鬼へと姿を変える主人公の岩手は、なぜ鬼婆＝「異形」とならざるを得なかったのか。気鋭の実力俳優・大久保美智子と隼穿大学が描きだす「異形」をめぐるコラボレーション朗読劇。

大久保美智子 プロフィール

俳優。1969年生。大学在学中に演劇を始め、91年に入団した劇団山の手事情社で、中心的な役者の一人として活躍。また09年より劇団SCOTにて俳優修行をし、様々な他劇団の公演にも客演するなど、国内外で多数の舞台に出演。19年に劇団山の手事情社を退団後、西荻窪芸術センターを発足し、精力的に演劇活動を展開している。

出演：大久保美智子 作・演出：朝倉景樹 (TDU・隼穿大学)

■公演時間約30分／言語：日本語 ■Language：Japanese



ここから『関西生コン事件』と私たち

監督：土屋トカチ Tokachi Tsuchiya

■2022年／日本／74分／言語：日本語／字幕なし

■language：Japanese／Subtitles：-



「私はやめない」

——聖子は静かにそう話した。

2018年、空前の労働組合弾圧事件が関西ではじまった。

業界ぐるみの大量解雇、そして、警察・検察がつぎつぎに組合員を逮捕していく。

家族が引き裂かれ、多くの仲間が去っていった。

それでも彼女らが踏みとどまるのは、なぜか。

土屋トカチ プロフィール

1971年京都府生まれ。監督デビュー作「フツの仕事をしたい」(08年)は英国・第17回レインダンス映画祭、UAE・第6回ドバイ国際映画祭において、ベストドキュメンタリー賞を受賞。2022年に最新作「ここから“関西生コン事件”と私たち」を発表。第11回日隈一雄・情報流通促進賞奨励賞を受賞。本映画祭の特別審査員でもある。

今年の雫穿大学国際映画祭のテーマは「異形」。

今年の映画祭のテーマは「異形」です。般若や鬼婆、毒虫に変身したザムザ青年など、様々な「異形」に私たちは関心を寄せてきました。TDUの多くの学生が経験した不登校・ひきこもりも、現代の「異形」の一つだと感じるからです。何かが「社会に当てはまらない」人は「異形」と見なされることがあります。一方で、そんな「異形」たちに人を惹きつける力も感じます。それは彼らの「自分自身であろう」とし続ける力であり、同時に閉塞した社会を突破する力でもあると感じます。今年は「異形」を切り口に、閉塞感を突き抜ける表現に出会えます。



つくる／雫穿大学作品

様式宣言／The Declaration of Yoshiki Dorama

監督：豊雅俊 Masatoshi Toyo / 雫穿大学映像プロジェクト



前衛劇団山の手事情社の俳優大久保美智子は、他の劇団から主演の出演依頼が来るほどのベテラン俳優である。大久保は三島由紀夫が能の古典演目を元に書いた「班女」を自ら主演・演出する公演を企画する。彼女には日本の現代劇はもっと内面のスケールの大きい劇ができるはずという思いがある。それを可能にするのは能の様式ではないか、という予感があった。果たしてその企図は成功するのか？

■2018年 / 33分 / 日本 / 言語：日本語 / 字幕なし ■language : Japanese / Subtitles : -



今の世に平和を語り継ぐ作品部門

土屋公献—平和と人権を守る弁護士

監督：石本恵美 Megumi Ishimoto / 制作：雫穿大学



弁護士法第1条には、弁護士は人権と社会正義を守ると記されている。日弁連の会長も務めたベテランの土屋公献弁護士にとっては、人権と平和を守るということになる。731部隊、重慶爆撃の弁護団長を務め、土屋弁護士は、自ら戦争の過去に向かい合い、社会に問いかけていく。自身の死を見据えながらも、人権と平和を守るという生き方を決して変えない、その生き様に迫る。

■2008年 / 日本 / 41分 / 言語：日本語 / 字幕なし ■language : Japanese / Subtitles : -



世界のオルタナティブスクール作品部門

I Keep Myself Going

監督：Tarak (haja center) / 韓国



「朝、8時 授業が始まる時、私は目を閉じる」韓国のオルタナティブスクールである haja (ハジャ) センターから寄せられた、「学校に行かない道を選ぶ私」を詩的に綴ったアニメーション。

■2004年 / 韓国 / 7分 / 言語：韓国語 / 字幕：英語・日本語
■language : Korea / Subtitles : English, Japanese

水 / Анатолий Качан. Анімовані вірші

制作：ストックファミリースクール / ウクライナ

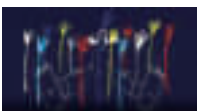


ストックファミリースクールの学びの特徴は、科目に分断しない学びにある。「水」をテーマに科学的に調べ、関連の物語や詩に触れ、絵を描き、水がモチーフの音楽やダンスを体験する。この作品はそんな総合的な学びの集大成として制作されたアニメーションである。

■ウクライナ / 8分 / 言語：ロシア語 / 字幕：日本語
■language : Japanese / Subtitles : -

無題 (平和を願う)

制作：ロシアのあるスクールの子どもたち / ロシア



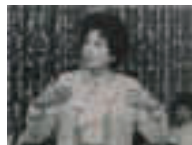
これはロシアのあるスクールの子どもたちの作品だ。ウクライナ侵襲開始後、ロシアでは様々な反戦活動が起きた。ロシア人の多くは友人や親戚がなんらかの形でウクライナにいるとされる。この作品は戦争反対の思いを表現している。しかし、現在は戦争について語ることも、作品を作ることも非常に難しくなっている。

■2022年 / ロシア / 数十秒 / カラー / アニメーション / 言語：なし
■language : -

マリコ—平和を求め続けた三代の物語 (新編集版)

Marico-The Trail of Three Generations of Terasaki Family to Realise the Peace

監督：豊雅俊 Masatoshi Toyo / 制作：創造集団 440Hz、雫穿大学



1941年戦争前夜、日米関係が急速に悪化していく中、二人の外交官の間で交わされた「マリコ」という少女の名は、米側の態度を示す暗号だった。この女性マリコ・テラサキは、駐米外交官である日本人の父とアメリカ人の母との間に生まれ、太平洋戦争を生き抜いた。戦後は日米の「かけ橋」として、平和への活動を続ける彼女の半生を追ったドキュメンタリー。

■2014年 / 42分 / 日本 / 言語：日本語 / 字幕なし ■language : Japanese / Subtitles : -

Death of A Gay Teenager

監督：Kang Sangwoo / 韓国



ひっそりと内に秘めながら、しかし確かにあるこの思い。私はこの思いが報われないことを知りながら、彼を見つめ、彼のことを考えてしまう…青年の内面の葛藤、「私」の思いが静かに押し殺されていく様を描いた作品。

■2009年 / 韓国 / 23分 / 言語：韓国語 / 字幕：英語・日本語
■Subtitles : English, Japanese

AUTOMATON / 自動人形

監督：Anna-Marie Ramm / イギリス

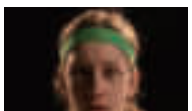


ウェバー社のいつもの勤務日、自律神経的な単調さによって動かされている社員は、何とかこなすべき仕事に絶望的にしがみつきながら、衝撃と痛みと格闘しつつ緩やかに触れながら機械化されていくのだ。

■2012年 / イギリス / 10分 / 言語：英語 / 字幕：日本語
■Subtitles : Japanese

僕は人間だ / I am a human

制作：モスクワ国際フィルムスクール / ロシア



劇で演ずる時、自分を全く見せずに演ずることは不可能だ。でも、自分に自信は持てないし、友人にこそ自分を見られるのは怖い。僕は役者だ。その前に、僕は人間だ。ロシアのオルタナティブスクールから届いた、日常の個人に焦点をあてた切実な短編。

■2008年 / ロシア / 9分 / 言語：ロシア語 / 字幕：日本語・英語
■Language : Russian / Subtitles : Japanese, English

タイムテーブル / Time Table

※スケジュールは変更になる場合がございます。最新情報はWEBサイトをご覧ください。

8 / 24日(木)	8 / 25日(金)	8 / 26日(土)	8 / 27日(日)
			15:45~ 【世界のオルタナティブスクール作品部門】 国内外の子ども・若者の映像作品の 上映 ★アフタートークセッション
		16:15~ 【今の世に平和を語り継ぐ作品部門】 土屋公献 ~平和と人権を守る弁護士~ マリコ ~平和を求め続けた3代の物語~ ★アフタートーク 「土屋公献」監督 石本恵美 「マリコ」監督 豊雅俊	17:30~ ここから「関西生コン事件」と私たち ★アフタートーク 「ここから『関西生コン事件』と私たち」 監督 土屋トカチ
19:00~ ヨコハマメリー ★アフタートーク 「ヨコハマメリー」監督・中村高寛	19:00~ 特別朗読公演 奥州安達ヶ原挽歌 ★アフタートーク 劇団「身体の景色」主催・オカノイタル	18:30~ 特別朗読公演 奥州安達ヶ原挽歌 ★アフタートーク 能楽師 安田登	19:30~ 特別朗読公演 奥州安達ヶ原挽歌 ★特別ゲストを迎えてのアフタートーク
	20:30~ 様式宣言 ★アフタートーク 俳優・大久保美智子		

参加費 / fee

映画上映回

前売り:1200円/1コマ 当日券:1500円/1コマ

朗読公演回

前売り:2000円/1コマ 当日券:2200円/1コマ

フリーパスポート(全日全コマ見放題): 5000円

※見逃し配信チケットもあります!(一部のアフタートークもしくは朗読公演のみの配信です)

お申込み方法

前売り券は以下のPeatixイベントサイトからお申込みください。
 当日券は、当日会場受付にてお求めいただけます。

<https://tdufilmfes2023.peatix.com/>



※作品および上映時間を変更する場合があります。ご予約・ご来場の前にHPでご確認ください。

お問い合わせ先: NPO法人 TDU・雫穿大学 映画祭実行委員会
 E-MAIL: info@tdu.academy TEL:03-6205-6079

TDU・雫穿大学国際映画祭サイト URL

tdu.academy/filmfes/

会場 東京 DEW 特設シアター

東京都新宿区西早稲田 2-4-7 東京 DEW 地下1階

■TDU・雫穿大学

日本で唯一の NPO 法人が運営する大学。18 歳以上の不登校、ひきこもりなど生きづらさの経験者が、自分の関心を見つけ、また自分に合った人間関係の持ち方を探し、自分の生き方をつくる学びをするオルタナティブな学びの場。海外の様々なオルタナティブスクールとも繋がり、国内ではワーカーズコープとの有機的連携を始めている。また、平田オリザ、最首悟、上野千鶴子ら様々な分野の専門家がアドバイザーとなっている。